

大好きなおじいちゃん

一宮市立丹陽西小学校 六年 神田 恵麻

毎年私が夏休みに楽しみにしていることは、お盆におじいちゃん、おばあちゃんの家でみんなが集まって、おすしを食べながらおしゃべりをしたり、打ちあげ花火を観たりすることです。今年もみんなが集まり、いつものように楽しい時間を過ごすことができました。

私のおじいちゃんはもうすぐ九十歳に、おばあちゃんは今年の八月で八十歳になりました。た。

今年は、戦後八十年。テレビを見ていると、節目の年ということで、戦争に関するニュースや映画もやっていましたが、戦争を知らない私からすると、つらくて悲しいものというイメージはあったも、なかなか身近なものという実感はありませんでした。でも、ふとおじいちゃんの小学校の頃はどんな感じだったのだろうかと考えた時、私が当たり前のように楽しく過ごしている夏休みは、おじい

やんにはなかったのだらうということは簡単に想像がつかしました。戦争を実際に経験した人たちが今は高齢でほとんどいなくなってます。またことは知っていました。しかし、私のおじいちゃんちゃんの口からは一度も戦争の話も聞いたことがなかった。なので、おじいちゃんちゃんが経験してきたことを何も知りませんでした。この機会に聞いてみたいと思い、おじいちゃんちゃんの前で何度もその話をしようと思いましたが、思い出させてしまうことがかわいそうな気がして、結局直接聞くことはできませんでした。代わりに、お母さんが子供の頃におじいちゃんちゃんから聞いた話を教えてくれました。

空襲で逃げる時に、頭を守るものが何もなくて、鍋をかぶって逃げたり、特にっらかったのは、食べる物がなくて、さつまいものつるを食べたりして、とにかくお腹が空いていたそうです。また、戦争が終わってから家はとても貧しく、中学校のお昼休みの時間にご飯も食べず、家の手伝いをしてからまた学

校に戻ったり、お弁当を持っていかなければ
ならない時も、お弁当箱に入れるおかずがな
くて、のりのつくだ煮をお米の上にうすく
伸ばしておかず代わりにしたりしたそうです
私の日常とは全く違う生活。食べることや
おしゃれをすること、友達と遊んだり、家族
でお出かけしたりすること、すべてがとても
ぜいたくに思い、胸が痛くなりました。将来
の夢だって自由に決められるし、きっとその
夢のために進学して、当たり前のように学生

生活を送るであらうと考えていました。

おじいちゃんは何も言わないけれど、私は
おじいちゃんの大変だった思い出からのメッ
セージをちゃんと受け取って、みんなに伝え
ていきたいと思いました。

今あるもの、一緒に笑い合ってくれる家族
や仲間がいることは、決して当たり前ではな
いことを忘れず、感謝をして過ごしていきた
いと思います。どうか大切な一人一人の命と
生活が守られる世の中でありますように。